

人と人をつなぐ・・・

F U R E

サテライト新聞

2016年6月発行 第4号 FURE

イメージキャラめばえちゃん



発行

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター (FURE)

相双地域支援サテライト

TEL 0240 (23) 6675

HP http://ifs.fure.fukushima-u.ac.jp/



営業を再開した葛尾村のせせらぎ荘

全村避難となっていた葛尾村に対する避難指示が6月12日午前0時、解除された。これを前に、休業していた宿泊交流館「みどりの里 せせらぎ荘」は5月から営業を再開した。交流拠点の復活とともに、帰還促進へつながる期待が寄せられる。

村の交流館「せせらぎ荘」が再開

葛尾村の避難指示が解除される

せせらぎ荘は2002(平成14)年に、村がオープンした。震災前には、宿泊・入浴だけでなく、宴会や会食、披露宴、法事など幅広い利用を呼びかけており、多くの利用があった。震災後、長期休業を余儀なくされ、館内の損傷が激しく、修繕を進めてきた。今回のオープンには、住民が自由に集うことのできる交流サロンと、日帰り入浴・温泉ではなく、沸かし湯が可能となっている。これまで好評だった宿泊や食事の提供は、来年度をめどとして再開する見通しだという。



ゆったりとくつろげるお風呂

人ともに、無料。開館時間は午前10時から午後4時。金曜日休館。◇ 葛尾村は全域が避難区域となっており、このうち、居住制限区域と避難指示解除準備区域が解除となった。居住制限区域の解除は初めて。対象の世帯・人口数は6月1日現在で、451世帯1466人のうち、418世帯1347人だった。◇ 避難指示の解除は、田村市都路地区、川内村東部の一部、檜葉町

に続き、4例目。役場と全住民が避難した自治体での解除は、昨年9月の檜葉町に続き、2例目となった。生活環境の整備は、大きな課題の1つ。そのなかで、解除翌日には、葛尾郵便局が13日から営業を再開した。また、同じく13日からは、交通支援無料サービスが始まった。コールセンターに事前予約の上の利用で、葛尾村の自宅を出発。JR船引駅、田村市立都路診療所、ヨークベニマル・メガステージ田村店、ふねひきパーク、リオンドール船引店、福島交通移車庫停留所、福島交通移車庫停留所、各所で下車・乗車できる。帰りも自宅まで運行する。解除の時点で、買い物ができる商店が再開していない。か、医師がいないことか、同サービスは、帰還した住民の大きな味方になる。



お茶を飲みながら話を楽しめる休憩所も

ひろのパークフェス 本年度の日程決定

本年度は
7月31日
8月25日
11月20日
の計3回開催。いずれも日曜日で、会場は広野町・ニッ沼総合公園。

ひろのパークフェスは、27年度「新しい東北」先導モデルとして、復興庁の支援を元に昨年スタートした。コミュニティ推進協議会)の活動の一環として、復興庁の支援を元にした。問い合わせは parkfes@hiro-niino.com まで。

双葉8町村・広野町に賑わいを取り戻そう」を合言葉に行われているひろのパークフェスが本年度も開かれる。広野パークフェス実行委員会は先ごろ、本年度の日程を発表した。

双葉8町村・広野町に賑わいを取り戻そう」を合言葉に行われているひろのパークフェスが本年度も開かれる。広野パークフェス実行委員会は先ごろ、本年度の日程を発表した。

双葉8町村・広野町に賑わいを取り戻そう」を合言葉に行われているひろのパークフェスが本年度も開かれる。広野パークフェス実行委員会は先ごろ、本年度の日程を発表した。

宮農再開の歩み

檜葉町・上繁岡水田復興会

2・田植えは祭り

■農家のハレの日

5月20日。6年ぶりの田植えの日。昨年までは実証栽培を行っていたため、「田植え」という言葉だけで考えれば、6年ぶりの表現は適切ではないことになる。だが、去年までとは異なる。実証栽培では、すでに育っている苗を買い付けて植えていたが、今年は自分たちで種をまき、苗を育て、この日を迎えた。そういう意味での6年



田植え機を操作する代表の佐藤さん

ぶり、となる。田植えが始まった頃合いを見計らって、国道6号線沿いにある田圃を訪れた。顔なじみとなった、復興会のメンバーの1人が、筆者を見るなり話しかけた。

今日は祭りなんだからよ、赤い口紅つけてこねーとダメだよ。お祭り。そう、今も全国各地で御田植祭りが行われていることが示すように、田植えは、

祭りの儀礼をなしているものだった。筆者が新聞記者をしていた前職時代、ここ何年か、毎年取材していたのは、とある神社のお田植え祭りだった。農耕儀礼の復元と風土に根差した農業文化を後世に伝えていくと続けられている行事の1つで、神饌（むんせん）田近くにある高校の女子高生が早乙女として、稲を手植えしている。

早乙女の特徴と言えば、鮮やかな衣装。前出のお田植え祭りでも、女子生徒たちは紺の緋（かすり）の着物に真っ赤なたすきをかけ、菅笠を身に着けて田に入る。早乙女は、神に奉仕する役であり、「ハレ」の役を持つとされている。「ハレ」は、民俗学の権威・柳田國男が唱えた「ハレ（晴）」と「ケ（憂）」のそれだ。簡単に言えば、ハレは非日常、ケは日常の時間空間で、日本人の伝統的な世界観の1つ。ここでは、その詳細を論じる場ではないので、ここで留め置くが、要するに、ハレの日とは特別な日ということである。田植えは、田の神への豊作を願い、恵まれた年を招きよせる重要なハレの日であり、

■いよいよ田植え

前置きが長くなっただ。今回、復興会が作業を行うのは、檜葉町上繁岡地内にある2か所の水田で、約4・5畝。同日は、そのうちの1か所の水田約2ヘクタールで作業に励んだ。メンバーの1人、柴田寿子さん（70）は、50年以上も稲作に取り組んでいる。避難先のいわき市から戻ってきたのは、町の避難指示解除（27年9月）の5か月前。そこから10か月、改装した物置の中で家族と生活をしてきた。

やっぱりね、1かから苗を育てて植えるのは気持ちが違うよ。今まで実証栽培はやってきたけど。本当に、みんなに助けられてきたね。

作業は田植え機を使う。動きが早く、軽快に作業が進む。男性陣は、1人が田植え機を操り、残る数人がその作業を見守り、時折声を掛ける。復興会の代表、佐藤充男さん（71）も、久々に田植え機を動かした。その顔は、心なしかほころんでいるようにも見えた。慣れた作業に親しめる喜びをかみしめつつも、諸手を挙げて喜ぶわけではない。町任せだったという実証栽培ではなく、自分たちの足で一歩ずつ探りながら進む宮農再開の道。やるからには、それなりに収量も上げなくてはならないし、



女性陣は育苗床を洗いながら、昼食の準備もする

よりをかけて作ったおふかしやワラビのおひたし、キュウリの漬物などのほか、カツオの刺身を味わった。この食事からも、田植えはハレの日だということがうかがえる。ハレの食事は「ちそうを指す。今年の刺身の味は、特別だろうね」と柴田さん。田植えの日の昼食は、必ず刺身を食しているという。

田植え翌日、21日。今度は、残る2・5畝の田圃での田植えとなったが、いつもとは勝手が違った。丸川珠代環境大臣、井上信治環境副大臣が訪れ、田植えに加わり、「一緒に作業した。大臣を見送った柴田さんに、昨日の刺身の味を尋ねた。ニンマリと笑い、右手親指を上げて答えてくれた。最高にうまかったよ。一生懸命働いた後の食事だものね」

草刈りに、鳥獣対策、これからも気は抜けない。それは、農家にとっての「ケ」なのではないか。ケを丁寧に通すことで、ハレが招かれる。現代では、ハレとケが薄らいできた、と言われるが、佐藤さんたちはこれから

クラシック音楽ファンには著名な、世界的指揮者、大野和士さん。過日、いわきで話をさせていただきました▼忙しい合間の中、精力的に続けるボランティア活動。その1つが、病院など、ホールに足を運べない人たちの元へ、出向き音楽を届けるといふもの▼原点は、クロアチアはザグレブ・フィルの音楽監督時代。激しい内乱下でも、コンサートを開いたひとりの人々の姿に、心が熱くなったそう。震災で傷ついた日本の姿に、その頃を重ねたとか▼人の倍の思いを寄せた福島での演奏会。大野さん、東京都交響楽団、思いを持つた人が奏でる音の素晴らしさに感涙でした▼思いのあふれる言葉とそうでない言葉も、心への届き方は変わります。私たちも、双葉郡の復興への思いを胸に、言葉を届け続けたいです

編集後記

クラシック音楽ファンには著名な、世界的指揮者、大野和士さん。過日、いわきで話をさせていただきました▼忙しい合間の中、精力的に続けるボランティア活動。その1つが、病院など、ホールに足を運べない人たちの元へ、出向き音楽を届けるといふもの▼原点は、クロアチアはザグレブ・フィルの音楽監督時代。激しい内乱下でも、コンサートを開いたひとりの人々の姿に、心が熱くなったそう。震災で傷ついた日本の姿に、その頃を重ねたとか▼人の倍の思いを寄せた福島での演奏会。大野さん、東京都交響楽団、思いを持つた人が奏でる音の素晴らしさに感涙でした▼思いのあふれる言葉とそうでない言葉も、心への届き方は変わります。私たちも、双葉郡の復興への思いを胸に、言葉を届け続けたいです